

新たな取組(事例紹介)について 豊川水系流域治水プロジェクト

令和3年5月28日

豊橋河川事務所

豊川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

豊川圏域大規模氾濫減災
総合サミット
資料-2-1

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、豊川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 豊川流域は産業経済の根幹をなす交通の要衝であり、無堤区間のある霞堤地区を有するなど水害リスクが高い流域であることから、霞堤対策や浸水リスクが高い地域の「安全なまちづくり」に向けた立地適正化計画の推進、霞堤地区浸水被害軽減対策計画等のソフト対策の整備を実施する。
- これらの取組により、国管理区間においては、戦後最大の昭和44年8月洪水と同規模の洪水に対し、破堤等による甚大な被害を防止するとともに流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



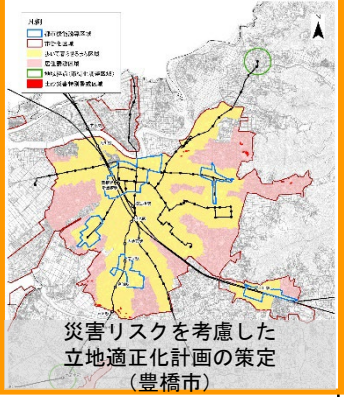
● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、樹木伐採、緊急浚渫推進事業
- ・霞堤対策(小堤、支川背水対策)4箇所
- ・設楽ダム建設
- ・放水路の機能保全・最大活用検討
- ・流出抑制対策
(利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築、下水道(雨水)整備、砂防関係施設整備、流域貯留池事業、治山施設の整備、森林の間伐、森林整備・保全等)



● 被害対象を減少させるための対策

- ・頻発・激甚化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」にむけた取組
(立地適正化計画、土地利用規制・誘導(災害危険区域等))



● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・被害軽減対策
(排水作業準備計画の検証、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進、避難場所や経路に関する情報周知、土砂災害警戒区域等の指定・周知)
- ・住民の主体的な避難行動を促す取り組み
(「みずから守るプログラム」の普及促進、防災講座・防災訓練、ハザードマップの作成・周知、住民の水害リスクに対する理解促進の取組、洪水プッシュ型情報配信、水害リスクライン配信、土砂災害リスク情報の現地表示、浸水予想図作成等)
- ・ソフト対策のための整備
(霞堤地区浸水被害軽減対策計画、水害リスクの高い区間の監視体制の整備、水害リスク空白域の解消等)



愛知県

- ・河道掘削(緊急河川浚渫推進事業を含む)、樹木伐採
- ・砂防関係施設整備
- ・治山施設の整備、森林保全
- ・みずから守るプログラム

新城市

- ・緊急浚渫推進事業等
- ・避難所の見直し検討等

豊川市

- ・緊急浚渫推進事業等
- ・立地適正化計画に基づく居住誘導等

豊川下流圏域

河川整備計画作成中

設楽町

- ・緊急浚渫推進事業等

豊川上流圏域

河川整備計画作成中

豊橋市

- ・緊急浚渫推進事業等
- ・立地適正化計画における「防災指針」の策定
- ・洪水ハザードマップの作成・啓発

石田

- ・霞堤対策(賀茂・金沢)
- ・小堤
- ・森林整備・保全

豊川市

- ・河道掘削
- ・下水道整備
- ・緊急浚渫推進事業(沖野川)

豊橋市

- ・下水道整備
- ・緊急浚渫推進事業(朝倉川)

豊川市

- ・河道掘削
- ・下水道整備
- ・緊急浚渫推進事業(白鳥川・宝川等)

凡例

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 実績浸水範囲
(戦後最大の昭和44年8月洪水)
- 大臣管理区間

※大臣管理区間以外は、県・市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

豊川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

● 豊川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】

- ・氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、設楽ダム建設や霞堤対策(小堤、支川背水対策)、緊急浚渫推進事業等により、豊川下流域の浸水深・浸水面積の減少を図る。
- ・被害対象を減少させるための対策として、災害リスクの高い地域を抽出・分析し、立地適正化計画に基づいた防災指針を策定する。
- ・被害の軽減、早期復旧・復興のための対策として、要配慮者施設避難確保計画の作成促進、「みずから守るプログラム」の普及促進等のソフト対策を推進する。
- ・霞堤地区浸水被害軽減対策協議会と協同し、水害リスクの高い区間の監視体制の整備等を実施する。霞堤地区の浸水被害軽減を図る。

【中長期】

- ・短期に引き続き、直轄管理区間・指定管理区間において河道掘削・樹木伐採等を実施し、中下流域の浸水被害解消を図る。
- ・防災指針等を踏まえ、構成員が一体となり災害リスクの低い地域への居住誘導を推進する。
- ・さらに、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策についても引き続き実施し、流域全体の安全度向上を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールは、今後の事業進捗によって変更となる場合があります。 ※各対策による実施主体は、代表的な市町名を記載しています。

区分	対策内容	実施主体	工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	豊橋河川事務所	■	■
	霞堤対策(小堤、支川背水対策)	豊橋河川事務所・愛知県豊橋市・豊川市 等	■	■
	設楽ダム建設	設楽ダム工事事務所	■	■
	放水路の機能保全・最大活用検討	豊橋河川事務所	■	■
	河道掘削・樹木伐採	愛知県	■	■
	緊急浚渫推進事業(朝倉川・白鳥川・宝川・沖野川 等)	豊橋市・豊川市・新城市 等	■	■
	下水道(雨水)整備	豊橋市・豊川市 等	■	■
	利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築	水資源機構 等	■	■
	砂防関係施設整備	愛知県	■	■
	治山施設の整備、森林保全	愛知県、中部森林管理局、森林整備センター 等	■	■
被害対象を減少させるための対策	防災・減災のための住まい方や土地利用:立地適正化計画	豊橋市・豊川市 等	■	■
	土地利用規制・誘導(災害危険区域等)	豊橋市・豊川市 等	■	■
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水ブッシュ型情報配信、水害リスクライン配信	豊橋河川事務所	■	■
	浸水予想図作成	豊橋河川事務所	■	■
	「みずから守るプログラム」の普及促進	愛知県	■	■
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進、避難場所や経路に関する情報周知 十 砂災害リスク情報の現地表示	愛知県・豊橋市・豊川市 等	■	■
	ハザードマップの作成・啓発	豊橋市・豊川市・新城市 等	■	■
	霞堤地区浸水被害軽減対策計画、水害リスクの高い区間の監視体制の整備	愛知県・豊橋市・豊川市 等	■	■

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

【事業費 (R2年度以降の残事業費)】

- 河川対策
全体事業費 約1,705億円 ※1
対策内容 河道掘削 設楽ダム建設 小堤整備 等
 - 下水道対策
全体事業費 約14億円 ※2
対策内容 下水道等の排水施設整備
- ※1:直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載
※2:各市町における下水道事業計画の残事業費を記載